

資料1

研究課題	1 イヌワシ個体群の生態的特性及び遺伝的構造に関する研究 (23-27)
研究目的・背景	<p>当研究では、絶滅可能性の評価に不可欠な個体群としての特性の把握に重点を置き、個体の追跡調査や、羽根、卵殻、ペレット（吐き出した未消化物）等をもとにした遺伝子解析を通じて、移動分散や遺伝的多様性に関する知見を収集する。また、イヌワシの採餌場所を供給する効果があるとされる森林の列状間伐において、これまで行なわれてきた縦方向（斜面上下方向）伐採ではなく、より効果が高いと推測される横方向（等高線方向）伐採を実施し、イヌワシの利用状況を明らかにして、希少種保全のための森林管理手法への応用を目指す。これまでに実施した営巣地改良事業の効果測定についても継続し、保全に貢献するデータの拡充を図る。さらに、岩手レッドデータブックに記載されたその他の絶滅危惧鳥種についても現状の把握につとめ、岩手県の生物多様性の向上に資する情報を集積する。</p>
研究内容	<p>○研究計画の概要（年次別）</p> <p>イヌワシ繁殖状況調査（23～27年）</p> <p>営巣地改良の効果検討調査（23～27年）</p> <p>横方向列状間伐による採餌場所設置効果の検討（23～25年）</p> <p>ビデオカメラによる繁殖行動の解析（23～27年）</p> <p>個体識別による移動分散調査（25～27年）</p> <p>遺伝子サンプルの収集とDNA解析（23～27年）</p> <p>その他の希少鳥類分布調査（23～27年）</p>
評価結果	<p>○総合評価 A(4人)・B(1人)・C(1人)・D(0人)</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本課題は岩手県の希少生物の保護の観点から重要な研究である。繁殖状況調査や繁殖成功率の増加を目指した取り組みなど、評価できる成果を出しており、今後も更なる発展が期待できる。</li> <li>・イヌワシの長年の研究が確実に成果を上げており、評価できる。繁殖成功率の低下については更なる検討が必要である。</li> <li>・岩手の絶滅危惧種の保護に不可欠なテーマであり、早期に有効な解決策が得られることを期待する。</li> <li>・近年の繁殖成功率の減少は厳しいものがあるため、具体的な保護政策に結びつく研究を加える必要がある。</li> <li>・岩手県の生息つがい数が32と限られていることもあるが、繁殖成功率の増加に向けたビデオカメラ観察、個体の移動分散行動などが調査のレベルに終わり、対策に向け進んでいないのが気になりである。（遺伝子解析も同様）H27年度が最終ということもあり、知見を増やすレベルから具体的な施策提案を可能となるような取り組みを期待する。</li> <li>・列状間伐は育林保育の観点からは縦方向に行なわないと効率が悪く実用的ではない。施業の低コスト化が強く求められている林業の現場で行なう保全だと言う観点で、実行可能かどうかを真剣に考えてもらいたい。また等高線方向の列状間伐を行なった場合にイヌワシ以外の生物、たとえば小型猛禽類やクマタカへの影響はどのようなかも検討すべきではないか。</li> </ul>
センターの対応方針	<p>①研究計画のとおり実施 2一部見直しの上実施 3計画再考 4中止</p> <p>いわての自然を代表する大型猛禽類であり、その絶滅が心配されているイヌワシを保護するための調査研究は、多様で豊かな環境の保全を推進するための重要な事業であり、長期的な取り組みが必要である。</p> <p>イヌワシつがいのモニタリングや巣の補修等の保全対策は引き続き実施していく。列状間伐の研究については、関係機関とも連携し、その効果について検証していきたい。</p>